

第4学年 国語科学習指導案

日時 平成21年10月16日(金) 6校時
児童 第4学年 男17名 女7名 計24名
指導者 教諭 中軽米 利夫

付きたい読解力	A 段落相互の関係をつなかりに注意しながら読む力 B 段落ごとの内容を写真と比較・検討しながら読む力 C 情報の選び方や表現方法に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする力
---------	--

- 1 単元名 材料の選び方を考えよう (光村4年下)
教材名 「アップとルーズで伝える」
「四年三組から発信します/選んで伝える」

2 単元について

(1) 単元の位置づけ

【低学年の説明文】 順序を追って、内容の大体を読む。



【中学年の説明文】 「ありの行列」・「すがたをかえる大豆」
・段落を知る。
・接続語に目をつける。
・一つの段落ごとにそれぞれ一つの事柄が書かれている。
『『かむ』ことの手』・「アップとルーズで伝える」
・段落と段落がつながって、さらに大きなまとまりを作る。
・文章全体は、大きな意味のまとまりをいくつか組み立てたものである。



【高学年の説明文】 要旨をとらえ、自分の考えをもつ。

(2) 教材について

第3学年及び第4学年の説明的文章の読解力として、最も身に付けさせたいことは、「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え正しく読むこと」である。また、本教材の中心となる指導事項は、「文章の内容を的確に押さえながら、対比やまとめなど段落相互の関係をとらえること」「相手と目的に応じて材料を選んで分かりやすく伝えること」である。

本教材では、メディアを通じて私たちが目にする映像や写真が、送り手の目的や意図によって選択されたものであることを、「アップ」と「ルーズ」という基本的な映像技法を通して考えていくようになっており、それぞれを象徴する写真が効果的に使われていて、2つの対比的な段落関係をつかむのに適した教材となっている。また、情報の収集・選択・発信の学習として「四年三組から発信します」が設定されており、今後自分たちが様々な情報を受けたり発信したりしていく際に、目的に応じた伝え方ができるように理解を深めさせたい。

(3) 児童について

児童はこれまで、「読むこと」の学習として、3年生の「ありの行列」を通して段落を知り、4年生の「かむことの手」で段落相互の関係を学習してきた。また、文章の「初め」に問題提示の部分があり、問題の「答え」にあたる内容を見つけたり、題名やくり返し出てくる言葉や接続語に気がついたりしながら読む学習をしてきた。その結果、段落ごとの内容を読み取る力は徐々に身に付いてきたものの、段落相互のつながりや段落の構成を理解し、意味段落ごとに文章全体を把握するまでには至っていない。また、社会科や総合的な学習の時間等の調べ学習においても、集めた資料の中から選択する力が不足しており、資料をそのまま写したり効果的な写真を選んだりすることもできない児童が多い。

ふかめる 25分	<p>3 各自視点に沿って読み進め、アップとルーズのちがいをを見つける。(一人学び)</p> <p>○ちがいをを見つける手がかりを考えて見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認した手がかりを参考に見つけさせる。 	<p>○ワークシートや接続語等をもとに考え、アップとルーズの長所と短所を見つさせせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までにまとめた要点や接続語・指示語など参考に教科書に線を引きながら考えさせる。 <p>(教科書・観察)</p>
	<p>4 各自長所と短所について見つけたことを交流し合う。(学び合い)</p> <p>○アップとルーズのちがいについて、発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちがいについて線を引いた所を発表させる。 	<p>○理由を付けながら、ちがいを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取るための手がかりを理由につけながら発表させ、アップとルーズのちがいが対比になって書かれていることを押さえてまとめる。 <p>(観察)</p>
まとめる 10分	<p>5 ④・⑤段落の要点を段落カードに書かせ、小見出しを班毎に考えさせる。</p>	<p>○中心文を見つけ、問いの文に対する答えになるようにまとめさせる。</p> <p>(カード)</p>
	<p>6 アップとルーズの大切さについて考えさせる。</p> <p>○アップとルーズではどちらが大切だと思いますか。</p>	<p>○理由をつけてノートに書かせる。(ノート)</p>
	<p>7 つかんだことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめを書く。 	<p>○板書したことや段落カードをもとに、④と⑤が対比して説明している書き方に気づかせる。</p> <p>(ノート)</p>
	<p>8 次時の学習内容を知る。</p>	

(3) 具体的評価規準

A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への支援
段落ごとの内容を写真と比較・検討しながら、表現の工夫を理解している。	段落ごとの内容を写真と比較・検討しながら、表現の工夫に気づいている。	段落ごとの内容をワークシートをもとに、写真と比較・検討させることで、表現の工夫に気づかせる。

(5) 板書

④でアップ⑤でルーズの長所と短所を対比させながら説明して、⑥でまとめている。

⑥

写真 ⑤	写真 ④
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広い範囲の様子 ・ 大小の旗 ・ 観客、選手 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細かい部分の様子 ・ ユニホーム ・ 選手の様子
でも	しかし
<ul style="list-style-type: none"> ・ 顔つきや視線 ・ 顔つきや視線 ・ 気持ち 	<ul style="list-style-type: none"> ・ うっさされていない多くのこと ・ おうえん席の様子 ・ チームの選手

伝えられること

対比

伝えられないこと

アップとルーズで伝える

中谷 日出

このように アップとルーズには 伝えられることと伝えられないことがある。

それで テレビでは、目的に応じて使い分けている。

アップとルーズのちがいをどんな書き方で説明しているだろう。

一 「アップとルーズで伝える」 教材分析表

意味 段落		形式 段落		キーワード		要 点		言語事項 (難語句)		紹介 構成	
1		2		3		①		②		③	
画面 (右写真)		画面 (左写真)		広いはんい アップ ある部分 ルーズ		アップ 細かい部分		ルーズ 広いはんい		目的の応じ て切りかえ ながら	
もうすぐ後半が始まるとうとする ところで、画面には会場全体がう つし出されています。		画面は、コート中央に立つ選手を 大きくうつし出しました。		広いはんいをうつすと方方を「ル ーズ」大きくうつすと方方を「ア ップ」といいます。アップとルー ズでは、どんな違いがあるのでし よう。		アップでとると、細かい部分の様 子がよくわかります。しかし、多 くのことは分かりません。		ルーズでとると、広いはんいのよ うがよくわかります。でも、顔 つきや視線、気持ちまでは分か りません。		このように、アップとルーズに は、それぞれ伝えられること伝え られないことがあります。それ で、目的に応じてアップとルーズ を切り替えながら放送していま す。	
ハーフタイム こうふん		きんちよう		アップ ルーズ なのでしよう。		このとき はらみ しかしし 分かります せん。		このとき 一体 視線 でもし 分かります せん。		このように それで	
紹介 構成		「初め」 話題提示と 問いかけ		アップとルー ズの違いは何 か。		「中」 説明と答え		アップとルー ズの長所と短 所		「終わり」 まとめと 筆者の考え アップとルー ズの使い分け	
⑧		⑦		⑥		⑤		④		③	
受け手が知 りたいこと 送りが手 が伝 えたいこと		いちばん合 うものを選 んで		受け手が知 りたいこと 送りが手 が伝 えたいこと		受け手が知 りたいこと 送りが手 が伝 えたいこと		受け手が知 りたいこと 送りが手 が伝 えたいこと		受け手が知 りたいこと 送りが手 が伝 えたいこと	
テレビでも新聞でも、受け手が知 りたいことは何か、送りが伝え たいことは何かを考えて、アップ でとるかルーズでとるかを決め たり、とつたものを選んだりして いるのです。		写真にもアップとルーズがあり ます。そして、その中から目的に いちばん合うものを選んで使う ようにしています。		受け手が知 りたいこと 送りが手 が伝 えたいこと		受け手が知 りたいこと 送りが手 が伝 えたいこと		受け手が知 りたいこと 送りが手 が伝 えたいこと		受け手が知 りたいこと 送りが手 が伝 えたいこと	

二 日常の学校生活における言語活動

- ① 必要な情報を得るために、図鑑や事典などを読んで利用すること。
- ② 「はじめ、中、終わり」という、文章構成を使って文章を書くこと。
- ③ 集めた情報の中から、相手や目的に合うものを選び利用すること。

